

# 『おきたま食の応援団』産地通信

～ 置賜産の農産物に関する“旬”の情報をお届けします ～

## おきたま旬の食材情報

### ～わらびのポット苗～

置賜地域は、山菜が豊富な地域ですが、農繁期と重なることから、歴史的には採りに行くより知り合いからのいただきものか購入することが多かったようで、干し物として蓄え、一年中を通して食したり、行事食として特別な料理に用いられたりしてきました。なかでも、わらびやゼンマイは最も重要な山菜です。

さて、平成25年の産地通信15号で、「わらびが耕作放棄地を救う」と題し、わらびのポット栽培の特集を組みましたが、その後大きな反響があり、昨年の12月には米沢市にある南原コミュニティセンターにて開催した講習会には、多数の方が来場されました。

そこで、今回は、前の特集号で十分に書ききれなかった、わらびのポット苗を作るまでの作業について詳しく解説したいと思います。

### 1 わらびの元苗を採取する

わらびにはアクの弱い系統や、紫の強い系統、緑の鮮やかな系統があるといわれていますが、それが自生する環境によるものなのか、系統によるものなのかは判然としない場合が多い

ようです。わらびの元苗を採取する場合は、その付近に発生するわらびの大半が揃って優良な地区のものを選ぶとよいでしょう。



山や自生地が自分の土地でない場合は、トラブルを避けるため、株の採取について持ち主からの許可を得る必要があります。

- (1) 芽が動き出す前（5月上旬頃まで）に掘り上げる
- (2) 掘り上げた地下茎のうち、先端の二股になった部分だけが成長するので、こうした芽のついた地下茎を多く集める。切断、分割はしない。
- (3) 掘り上げた芽のついた地下茎は、切らずにそのまま園芸用バットにまとめて入れて覆土する。

### 2 バット育苗で約半年

根域が制限されたバットで育苗すると、野生ではまばらにしか発生しない芽の部分が急増します。覆土は、発根を邪魔しないように肥料分の少ない、育苗用の培土が適します。庭の土や畑の土だと雑草の種が多く、後で大変な苦勞をすることになります。

- (1) 園芸用バットは、太いパイプや垂木などで地面から隔離して育苗する（隔離しないと地下茎がバットの底を突き破り地面に侵入する）。

- (2) 展開した茎葉が倒れないようにフラワーネットを展張して支える（茎葉が倒れると生育が極端に低下する）。
- (3) 乾燥しやすいのでこまめに灌水する。
- (4) このようにして管理すると、次々に新しい芽が発生して秋までにバット一面を覆うくらいになる。
- (5) 最初に展開してくる芽から出る葉が完全に開いた頃（6月下旬～7月上旬）に追肥を行う。
- (6) わらびのポット苗を入手出来る場合は、1バット当たり4～5個程度植えておくと秋までに同程度増殖する。



### 3 秋になったらポットに鉢上げ



晩秋になって茎葉が黄化してくると、いよいよポット苗の準備となります。この作業は、株が眠っている晩秋から早春にかけて行うことができますが、秋のうちに終わっておくと春作業の慌ただしい時期に余計な作業がなく、楽に管理できます。株を分割してポットに植えた後は、ポットのまま雪に当てても問題ありません。ただし、萌芽後は霜に当たると枯れる場合がありますので、霜よけ等のベタガケ資材をかけておくとよいでしょう。これは雑草の種が侵入するのを防ぐ効果もあります。

- (1) 株をバットから取り出し、水で洗浄して2～3芽毎（5～6cm）に分割して、9cmポットに鉢上げする。
- (2) 1バットから80～160ポット程度の苗ができる。
- (3) ポットに植え付けたら露地条件（雪下）で越冬させる。
- (4) 越冬後は乾燥しないように灌水を行い、萌芽後は霜に当たらないように不織布をベタガケする。萌芽はややバラつくので、生育の近い物を集めて、並び替えするなどして管理する。

- (5) 桜の咲く頃にはポットから新しい芽が伸びてくるが、発根はその後から始まるので、定植はポットに十分根が回ってから行う。



## 5月の食関連イベント情報

### 川西町

#### こまつ市

いよいよ今年も始まります！

「こまつ市」は置賜地域最大級の朝市で、今年で9年目を迎えます。

町内の“うまいもん”が勢ぞろい！ぜひ一度お越しください！

- ◆開催日／平成27年5月9日（土）7:00～8:30
- ◆場所／JA山形おきたま川西支店東側駐車場
- ◆問合せ先／こまつ市実行委員会事務局（川西町産業振興課内） TEL 0238-42-6696



### 飯豊町

#### 全国白川ダム湖畔マラソン大会

新緑のダム湖畔を走ってみませんか？

2 km、5 km、10 kmと体力に合わせたコースでTRY！

飯豊町内の特産品を購入できる売店も多数出店します。

- ◆開催日／平成27年5月10日（日）
- ◆場所／白川ダム湖岸公園
- ◆問合せ先／全国白川ダム湖畔マラソン大会実行委員会（飯豊町教育委員会内） TEL 0238-72-3111



### 事業者会員および個人（メルマガ）会員を募集中です！

おきたま食の応援団は、置賜産農産物を地域全体で応援する取組みを行っています。「おきたまの食」に関連する事業者など、応援団の趣旨に賛同していただける方をご紹介します。



また、個人（メルマガ）会員もあわせて募集中です。「おきたま食の応援団」のホームページから登録できますので、ぜひご登録ください！

#### 《おきたま食の応援団事務局》

置賜総合支庁農業振興課生産流通担当  
電話（0238）26-6051 FAX（0238）21-6941

おきたま食の応援団

検索

### 長井市

#### 白つつじまつり

樹齢750年の古樹をはじめ、3000株余りの琉球種の白つつじが咲き誇り、園内では地場製品の販売も行われます。

- ◆開催日／平成27年5月10日（日）～平成27年5月31日（日）
- ◆場所／長井市白つつじ公園
- ◆問合せ先／長井市観光協会 TEL 0238-88-5279



#### 第26回ながい黒獅子まつり

黒獅子まつりの会場に、地元の食材を使った多くのお店が並びます。

勇壮な黒獅子の舞とともに、ぜひお楽しみください！

- ◆開催日／平成27年5月23日（土）
- ◆場所／長井市白つつじ公園内（長井市神明町）
- ◆問合せ先／ながい黒獅子まつり実行委員会・長井市観光協会 TEL 0238-88-5279

#### 出会の食材コラムその5

##### ～置賜の地酒とお米 3月23日地酒サミット編～

又聞きながら面白い話を聞いた。純米酒1升を作るには、田んぼ1坪分のお米が必要らしい。つまり大人が毎日1合純米酒を飲むと、1合×365日=36.5升で、36.5坪。一坪3.3㎡なので、一人あたりおおよそ10a分の米を消費することになるということだ。米過剰の今では、是非純米酒を飲んで米の消費を進めたいところだが、これが江戸時代やそれ以前はどうだったろうかとふと考えた。主食としても換金作物としても貴重なお米を、それこそ酒に化かしてガンガン飲まれてしまえば、さぞかし大変なことだろう。いや、まてよ。置賜って酒蔵がやけに多いな・・・3市5町で18蔵もあるのか？

何々、元天領地帯であった高畠町では、かつて100以上の酒蔵があったのだと？

考えてみれば、置賜は古からの米どころ。おまけに内陸部に位置しているのだから、江戸や大阪に米を売りたいとも、輸送費がかさむので容易に換金できない。お米がある意味地域に大量にあったということなのか？その当時にして米から輸送が容易な軽量で高価な商品作物に転換させた鷹山公はまさに天才と思う一方で、有り余る生産力はかくも美味しい地酒を後世に残してください。ありがたいことである。豊かな米と美しい水。

地酒サミットにて置賜の地酒18蔵、おいしくいただきました。